

獣医師の目

【肉用牛】宮本 翔也

下痢症に効果も変敗に

注意

発酵代用乳

この冬は厳しい寒さが続き、子牛の下痢で悩んだ方は多いのではないのでしょうか。私がある肉用牛繁殖農場で、子牛の下痢症対策として取り組んでいるのが、発酵代用乳です。

発酵代用乳とは、市販の代用乳（粉ミルク）に乳酸菌製剤を添加して22〜25度で数日間発酵させ、ヨーグルト状にしたものです。この発酵代用乳を子牛に給与することで、下痢症を軽減させることが報告されています。なお、発酵代用乳は品質が重要です。なるべく衛生的に作ることをポイントだと思います。

発酵代用乳は発酵をうまく利用する例ですが、サイレージなどの飼料は、発酵がうまくいかずに変敗することもあります。こちらは逆に成牛の下痢症の原因となります。すなわち、変敗の進ん

だ飼料では、栄養価値や嗜好（しこう）性が低下する可能性があります。そのため、牛の健康状態に悪影響を与えます。

また、低品質サイレージにおいてカビがつくる毒素（カビ毒）が検出されることもあり、カビ毒を多量に摂取した家畜では、さまざまな有害作用を示します。ただし、サイレージの目に見えるカビの発生とカビ毒の有無は、必ずしも関係性があるわけではないとの報告があるので注意が必要です。

（NOSA I岡山 北部基幹家畜診療所技師）



サイレージに発生したカビ